

クロアチア概要

2020年8月
在クロアチア日本国大使館



面積：5万6,594 Km²
(日本の面積の約15%;九州の約1.5倍)
人口：406.8万人(日本の人口の約3%)(2019年、クロアチア統計局)
首都：ザグレブ(人口80万人)
民族：クロアチア人(約90%)、セルビア人(5%弱)等
宗教：カトリック(86%)、他
公用語：クロアチア語
公用文字：ラテン文字
GDP：604億ドル(日本のGDPの約1.2%)(2019年名目値、世界銀行「World Development Indicators」)
一人当りGDP：1万4,853ドル(日本の一人当りGDPの約37%)(2019年名目値、世界銀行「World Development Indicators」)

貿易(2019年、クロアチア統計局)

輸出：170億ドル(152億ユーロ)(機械類、原料別製品、化学製品、食料品等)

輸入：280億ドル(249億ユーロ)(機械類、原料別製品、化学製品、鉱物性燃料等)

主要産業 観光がGDPの25%。10のユネスコ世界文化・自然遺産を有する。

<概観>

1. 1990年代前半の紛争後復興を遂げ、近隣諸国との関係は概ね安定。
2. 重点外交目標であったNATO加盟を2009年4月に、EU加盟を2013年7月にそれぞれ達成。2008～09年には国連安保理非常任理事国を、2020年前半にはEU議長国を務めた。現在の主要目標はユーロ導入、シェンゲン協定及びOECD加盟。
3. 2000年以降、経済は好調に推移してきたが、2008年に発生した世界経済危機の影響により2009年以降マイナス成長となった。その後、2015年から2019年までプラス成長が続いたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行等により、2020年は10.8%の減少後、2021年は7.5%まで回復する見通しとなっている(欧州委員会「2020年夏の中間経済見通し」)。

1 政治体制



ミラノビッチ大統領



プレンコビッチ首相



グルリッチ＝ラドマン外相



ヤンドロビッチ議会議長

元首：ゾラン・ミラノビッチ大統領（2020年2月19日就任。任期5年、2025年2月19日迄。）

軍の最高司令官。対外政策で政府と責任を共有。社会民主党（SDP）所属であったが、大統領就任に伴いSDPの党籍から離れた。元SDP党首、元首相（2011年12月～2016年1月）。2015年、首相として訪日（実務訪問賓客）し、安倍総理と首脳会談。

首相：アンドレイ・プレンコビッチ首相（2016年10月19日就任。）HDZ党首。

政府の首班として、内政・外交全般に責任を負う。2016年7月のHDZ党首選で同党党首に就任。2013－2016年10月欧州議会議員。2020年3月15日の同党内選挙で党首に再選。2020年7月の議会選挙後、第2次プレンコビッチ内閣が発足。

外務・欧州問題相：ゴルダン・グルリッチ＝ラドマン（2019年7月就任。2020年7月再任。）HDZ所属。前駐独大使。2019年8月河野外務大臣（当時）と会談。2020年7月茂木外務大臣と電話会談。

議会：一院制（任期4年（解散あり）定員151、次期選挙は2024年の見込み。）

議会議長：ゴルダン・ヤンドロコビッチ（2017年5月就任。）HDZ所属。元外相。

2019年6月、大島衆議院議長の招待で訪日、天皇皇后両陛下の御引見を受け、衆議院及び参議院両議長、安倍総理、河野外務大臣（当時）と会談。

<与党政党・議員>

◇クロアチア民主同盟（HDZ、中道右派）（与党第1党）：62

◇クロアチア社会自由党（HSLŠ）：2

◇人民党（HNS）：1

◇リフォーマリスト：1

◇キリスト教民主党（HDS）：1

◇少数民族代表議員：8（うち独立民主セルビア党：3）

◇無所属議員：1

<野党政党・議員>

◆社会民主党（SDP、中道左派）（野党第1党）：34

- ◆ミロスラフ・シュコロ祖国運動（野党第2党）：11
- ◆MOST（独立議員リスト、野党第3党）：7
- ◆我々ならできる！（MOZEMO!、野党第4党）：4
- ◆イストラ民主会議（IDS、地域政党、野党第5党）：3
- ◆農民党（HSS）：2
- ◆クロアチア保守党（HKS）：2
- ◆その他小政党：10
- ◆無所属議員：2

クロアチア・日本友好議員連盟：2020年7月に新議会発足後、未だメンバーが公表されていない。

（※日本・クロアチア友好議員連盟：岸信夫事務局長他。）

2 国内政治情勢

- (1) クロアチア独立以来、HDZとSDPの2大政党が政権交代をしてくれている。
 クロアチア民主同盟（HDZ）：1991～2000年；2003～2011年；
 2016年1月～政権を握る。
 社会民主党（SDP）：2000～2003年；2011～2016年1月まで政権を握る。
- (2) 政権交代の過程で、大統領権限の縮小、民主化の進展等が実現。
- (3) 2016年9月の議会選挙により、10月、与党第1党のプレニコビッチHDZ党首を首相とする新政権（与党第2党MOSTとの連立内閣）が発足。しかし、2017年4月、連立与党間の対立から、プレニコビッチ首相は、MOST所属閣僚全4名を解任。これに伴い、HDZは、MOSTとの連立を解消し、2017年6月、人民党（HNS）と連立政権を発足。ペイチノビッチ＝ブリッチ外務欧州問題相の欧州評議会事務局長への選出並びに行政相及び国家資産相の辞任を受け、2019年7月に7名の閣僚の交代を伴う内閣改造が行われた。
- (4) 2020年1月に決選投票が行われた大統領選挙で、野党SDP候補のミラノビッチ元首相が現職で与党HDZが推すグラバル＝キタロビッチ候補に約10万票の得票差で勝利。2月18日にミラノビッチ新大統領の就任式が行われ、翌日より任期を開始した。
- (5) 2020年春以降の新型コロナウイルス蔓延（及び秋に感染第2波到来の恐れがあること）を受け、同年5月議会が解散され、7月に前倒し選挙が行われた。同議会選挙では、HDZがSDP率いる連合を引き離し、第1党となった。HDZは、少数民族代表議員や中道政党の協力を得て議会過半数に必要な76名の議員を確保し、第2次プレニコビッチ内閣を発足。新政府は、省の統合・再編により、省の数を20から16に削減。

3 地方行政・政治

- (1) クロアチアはザグレブ市と20の県（ジュパニヤ）に分かれている。

- (2) クロアチアの国土は以下に分けられる。
- 内陸部：パンノニアと呼ばれる中央部（ザグレブ、バラジュディン、チャコベツツ等）及び東部（スラボニア）。全土の約54%。
○中央部：国内の先進的な地域で、与野党の勢力は拮抗している。
○東部：伝統的穀倉地域。戦争で被害を受けた地域も多く、また、 Dayton 合意に基づき、1998年に平和的にクロアチアに統合された地域を含む。HDZが強い。
 - 山岳部：内陸部と海岸部に囲まれている。全土の約14%。
 - アドリア海沿岸地域：北部（イストラ半島、リエカ等）及び南部（ドブロブニクを含むダルマチア一帯）。全土の約42%
○北部：工業化が進展。特にイストラ半島は、イタリア文化の影響が強く、SDP、IDSが強い。
○南部：観光資源が豊か。魚介類も豊富で独自の風土を誇っている。
- (3) 2017年5月21日（決選投票：6月4日）に統一地方選挙実施。与党HDZが勝利。次期統一地方選挙は、2021年5月の予定。

4 外交

- (1) ヨーロッパ、西側の一員としてのアイデンティティと外交路線を追求。
- EU加盟：外交上の最大目標だったEU加盟を2013年7月に実現。シェンゲン協定、ユーロ導入及びOECD加盟を目標としている。2020年前半にEU議長国を務めた。クロアチアは、EUの2021-2027年多次年度財政枠組(MFF)及び復興計画(「次世代のEU(NGEU)」)から総額約220億ユーロを受け取る。
 - NATO加盟：2009年加盟。ウクライナ危機後、クロアチアの政府要人達は、集団安全保障の道を選択したことは正しかったと発言。
※NATOのミッション(アフガニスタン(ISAF)、コソボ)に参加。ISAF終了後、2015年1月より「確固たる支援(RSM)」任務に参加(2020年3月、同年2月に米国・タリバン間で結ばれた和平合意の履行が進み次第、クロアチアは、アフガニスタンから撤兵させる意向を表明)。2017年10月から、ポーランドとリトアニアにおける「前方展開強化(eFP)」任務に参加。2018年よりNATOイラク・ミッション(NMI)にも参加。2019年3月時点で累計6700名以上を派遣(クロアチア議会プレスリリース)。
 - 国連平和維持活動に参加経験あり(西サハラ、ハイチ、ゴラン高原、キプロス、レバノン、リベリア、インド・パキスタン、コソボ等)。2020年現在、累計19のミッションに1300名以上を派遣(クロアチア外務・欧州問題省ウェブページ)。
- (2) 「ヨーロッパとバルカンの架橋」となる役割を自ら追求
- 1990年代前半の紛争の傷跡は残るも、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ等近隣諸国との関係を概ね安定的に保ち、近隣の西バルカン諸国のEU・NATO加盟を後押し。2020年前半は、EU議長国として、北マケドニア及びアルバニアとのEU加盟交渉開始合意を提唱し、同年3月の欧州理事会において右交渉の開始が合意された。また、同年5月にEU・西バルカン諸国首脳会合を開催し、西バルカン諸国の欧州に向けた展望への明確な支持を再確認する「ザグレブ宣言」が採択された。

(3) スロベニアとの国境・海洋境界画定問題

- スロベニアとの国境・海洋境界画定を常設仲裁裁判所に付託していたが、2015年7月、スロベニア側の不正行為が発覚し、クロアチアは同仲裁プロセスから離脱を表明。しかし、常設仲裁裁判所は、2016年6月仲裁裁判の再開を決定し、2017年6月に裁定結果を発表。クロアチアは、仲裁プロセスから離脱をしていることから裁定結果を受け入れず、スロベニアとの二国間対話で解決を目指す方針を示している。なお、2018年7月、スロベニアは、クロアチアによる仲裁裁定の不履行に関し、欧州司法裁判所（ECJ）においてクロアチアを提訴したが、2020年1月、ECJは、本事案は同裁判所の管轄権に属さない旨の判決を下した。

(4) エネルギー等インフラ外交

- グラバル＝キタロビッチ大統領（当時）は、中東欧の南北間のエネルギー及びインフラ等の連携を強化し、同地域全体の開発を目指す3海域（バルト・アドリア・黒海）イニシアティブを提唱。EUのエネルギー安全保障の観点から推進されているクルク島LNGターミナル（2021年1月より稼働予定）建設プロジェクトは、このイニシアティブの主要プロジェクトとされている。

(5) 対中関係

- 2018年4月、ペリエシャツ橋建設事業の建設主体である中国企業との契約以降、プレンコビッチ首相の訪中（2018年11月）、「16+1」首脳会合のクロアチア開催（2019年4月、於ドブロブニク。ギリシャが加わり「17+1」となる。）など、対中関係強化に積極的である。2020年3月には、プレンコビッチ首相と李克強中国首相が電話会談を行い、新型コロナウイルス対応及び中国からの医療用保護具の調達等につき協議した由。

(了)